

■ 第1問 記述式問題

年度	出典	主に問いたい資質・能力	分析	比較	指導上の留意点
29年度試行調査	<p>実用的文章</p> <ul style="list-style-type: none"> 青原高等学校 生徒会部活動規約 生徒会部活動委員会の執行部会における生徒の会話 資料① 部活動に関する生徒会への主な要望 資料② 市内5校の部活動の終了時間 資料③ 青原高校新聞 	<p>【知識・技能】</p> <p>問1・問2…言葉の特徴や使い方に関する知識・技能 (文や文章)</p> <p>問3…情報の扱い方に関する知識・技能</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>問1・問2…目的等に応じて情報をとらえ、テキスト全体の要旨を把握することができる。</p> <p>問3…テキストを踏まえ、推論による情報の補足や、既有知識や経験による情報の整理を行って、テキストに対する考えを説明することができる。</p> <p>テキストを踏まえ、条件として示された目的等に応じて、必要な情報を比較したり関連付けたりして、テキストに対する考えを説明することができる。</p>	<p>「授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等をもとに考察する場面」を設定するという、作問段階でのねらいに合致した問題である。しかし、文章は生徒の対話で平易であり、読解において思考力・判断力を求められることはない。むしろ「生徒会規約」と①～③の資料を、どこでどう用いるかという的確な判断が求められている。つまり、目的に応じて情報を素早く整理し活用する能力が求められていると言える。問いの意図について思考の深まりがほとんど求められないので、問3においては、採点基準として、情報の活用のしかたに細かい条件が付されたと思われる。その結果、すべての条件を満たした解答は1%にも満たず、実に81.6%が「その他の解答」に分類されることになった。</p> <p>情報の整理活用能力も国語力の一つではあるだろうが、言葉によって思考を深めるといふ営みから離れて情報活用能力を問うことが果たして国語の問題として適切なかどうか、議論の必要があるのではないか。少なくとも、こうした問題では、国語力という点で多様な学力層を識別することは難しいだろう。</p>	<p>29年度の問題は、5月に公表されたモデル問題と同様のコンセプトで作問されたと考えられる。実用的な文章を複数用いて、情報の整理と活用能力を生かして、条件に応じた的確な説明ができることを重視している。しかし、プレテストの結果、思考力・判断力が深まる問題になりにくい、学力層を識別できていない、採点基準が多岐にわたりすぎている、などの問題点が指摘されたので、30年度は、記述式問題を論説文に基づいて作問することになったのではないかと。</p> <p>国語の問題としては、30年度のほうが、文脈を踏まえた考察を求められている分、国語的な情報活用能力を試す問題と言えるが、今後の動向には十分留意する必要があるだろう。</p>	<p>記述式問題の性格上、長い評論を基本の資料とすることは考えにくい。比較的短い論理的文章を、日頃から読み慣れること、しかも速読できるように訓練することが大切だろう。</p> <p>これからの社会においては、やはり高い情報処理能力が求められるし、求められていることを過不足なく、的確に報告できる能力を養う必要がある。その点で、新テストを意識した短くまとまった評論(あるいはその一部)をテキストにしたり、新聞の論説などを活用したりするのはよい方法ではないかと思われる。</p>
30年度試行調査	<p>論理的文章</p> <ul style="list-style-type: none"> 鈴木光太郎『ヒトの心はどう進化したのか』 正高信男『子どもはことばをからだで覚える』 川添愛『自動人形の城』 	<p>【知識・技能】</p> <p>問1・問2…言葉の特徴や使い方に関する知識・技能 (文や文章)</p> <p>問3…情報の扱い方に関する知識・技能</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>問1…テキストにおける文や段落の内容を、接続の関係を踏まえて解釈することができる。</p> <p>問2…目的等に応じて情報をとらえ、テキスト全体の要旨を把握することができる。</p> <p>問3…テキストを踏まえ、推論による情報の補足や、既有知識や経験による情報の整理を行って、テキストに対する考えを説明することができる。</p> <p>テキストを踏まえ、条件として示された目的等に応じて、必要な情報を比較したり関連付けたりして、テキストに対する考えを説明することができる。</p>	<p>30年度については、29年度のような詳細なデータ分析がまだ出ていない。しかし、おそらく前年度の問題よりも、より国語力という点における学力層による違いは把握できるのではないだろうか。それは、文章が論理的文章であり、文脈を読み取る力が求められているからである。</p> <p>また、偶然かもしれないが、国語力の原点でもある言語に関する評論が取り上げられているのも、前年度の出題が「国語」から離れすぎたという反省があったのかもしれない。だが、文章レベルに対し、設問は平易すぎる感が否めない。100分という制限時間の中で、合計して200字近い記述式問題を入れるとなると、読解に時間をかけられないという悩みがあるのかもしれない。</p>	<p>国語の問題としては、30年度のほうが、文脈を踏まえた考察を求められている分、国語的な情報活用能力を試す問題と言えるが、今後の動向には十分留意する必要があるだろう。</p>	<p>記述式問題の性格上、長い評論を基本の資料とすることは考えにくい。比較的短い論理的文章を、日頃から読み慣れること、しかも速読できるように訓練することが大切だろう。</p> <p>これからの社会においては、やはり高い情報処理能力が求められるし、求められていることを過不足なく、的確に報告できる能力を養う必要がある。その点で、新テストを意識した短くまとまった評論(あるいはその一部)をテキストにしたり、新聞の論説などを活用したりするのはよい方法ではないかと思われる。</p>

■ 第2問 論理的文章

年度	出典	主に問いたい資質・能力	分析	比較	指導上の留意点
29年度 試行調査	宇杉和夫他 『まち路地再生のデザイン 路地に学ぶ生活空間の再生術』	<p>【知識・技能】 問1～問4…言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（文や文章） 問5…情報の扱い方に関する知識・技能</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 問1・問3…目的等に応じて情報をとらえ、テキスト全体の要旨を把握することができる。 問2・問4…テキスト全体を通じて対比されている事項について考察し、共通点や相違点を整理することができる。 問5…テキストを踏まえ、推論による情報の補足や、既有知識や経験による情報の整理を行って、テキストに対する考えを説明することができる。 テキストに含まれている情報を統合したり構造化したりして、内容を総合的に解釈し、テキストに対する考えを説明することができる。</p>	<p>複数のテキストを用いるのではなく、図表・写真が含まれた文章を用いている。表1・表2は文章の内容を整理したもので、読解の助けとなっているが、図3については、文章も注釈もわかりにくく、図3が何の例か判断できなかつた生徒も多かつたのではないかと。論が行ったり来たりするようなどころもあり、文章全体の論理展開を追うことが難しい文章である。</p> <p>また、一般的には文章を理解するために、図表・写真を用いるものだが、問題では図表・写真を理解するために文章が用いられている場合もあり、読むことよりも、複数の情報を使うことを重視して作問されたような印象を受ける。</p> <p>問5の「緊急時や災害時の対応の観点を加えて議論した場合」という条件を加え、推論する力を問うている点は、新傾向問題らしいと言える。だが、「緊急時や災害時の対応」に限れば、解答は決して一つではないし、結局、その他の条件が正解を導く。たしかに答えのない問いは他者と意見を交わし合う場合に生きるし、推論も必要になるが、一つだけの答えを出すマーク式では限界を感じる問題でもあった。</p>	<p>論理的文章をもとに、複数の資料を使って、バラエティに富んだ作問がなされているという点では共通している。しかし、文章中に述べられていることの例をあげさせたり、文章の一部の説明や表現の効果を考えさせたりしている点を見ると、30年度の問題は従来のセンター試験の問題にいくらか戻っているという印象を受ける。</p> <p>漢字の問題を除くと、正答率はほぼ同じくらいであるが、29年度の場合は、文章そのものが読み取りにくいのに対し、30年度は資料の使い方や問いが工夫されていることが正答率アップに影響していると考えられる。</p>	<p>本番も、文章のみという出題はおそらくないだろう。授業で評論を学習する際には、同じテーマの作品や資料を探して比較したり、それらを用いてまとめたりするという学習のしかたが望まれる。</p> <p>また、国語だけでなく、他教科においても、資料やデータの読み取りやその活用法を意識してテキストを理解するよう、教科を超えた取り組みをすることが効果的である。漢字は出題される可能性が高い。ただし、機械的に覚えるのではなく、探究学習のプロセスに取り入れて構造的な学習にする工夫がいるのではないだろうか。</p>
30年度 試行調査	<ul style="list-style-type: none"> 著作権に関するポスター 著作権法（抜粋）2016年改正 名和小太郎『著作権 2.0 ウェブ時代の文化発展をめざして』 	<p>【知識・技能】 問1…言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（語彙） 問2～問5…言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（文や文章） 問6…情報の扱い方に関する知識・技能</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 問1…テキストにおける語句の意味や比喻等の内容を適切にとらえることができる。 問2・問4…テキスト全体を通じて対比されている事項について考察し、共通点や相違点を整理することができる。 問3…目的等に応じて情報をとらえ、テキスト全体の要旨を把握することができる。 問5…テキスト全体の構成や展開、表現の仕方等を評価することができる。 問6…テキストを踏まえ、条件として示された目的等に応じて、必要な情報を比較したり関連付けたりして、テキストに対する考えを説明することができる。 テキストに含まれている情報を統合したり構造化したりして、内容を総合的に解釈し、テキストに対する考えを説明することができる。</p>	<p>29年度の問題作成においては、「既存のデータでは蓄積されていないタイプの問題に関する解答傾向等のデータを集めること」が重視されていたためであろうか、論理的文章においては漢字の問題が出題されなかった。しかし、30年度においてはセンター形式での出題が復活している。難易度もほぼ同じと言ってよい。漢字の問題は全体の正答率を引き上げるとともに、知識問題であるため学力層の識別もしやすい。</p> <p>文章の読解に加え、資料の比較や表現の効果を考えさせる点で、29年の問題ではあまり期待できなかった「複数の情報を基に思考・判断をさせることができる問題」になっている。</p> <p>ただ、問5の選択肢の中には果たして表現の問題と言えるのか疑問が残るものもあった。</p>	<p>漢字の問題を除くと、正答率はほぼ同じくらいであるが、29年度の場合は、文章そのものが読み取りにくいのに対し、30年度は資料の使い方や問いが工夫されていることが正答率アップに影響していると考えられる。</p>	

■ 第3問 文学的文章

年度	出典	主に問いたい資質・能力	分析	比較	指導上の留意点
29年度 試行調査	光原百合他 『アンソロジー 捨てる』	<p>【知識・技能】 問1…言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（語彙） 問2～問5…言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（文や文章）</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 問1…テキストにおける語句の意味や比喻等の内容を適切にとらえることができる。 問2…テキストの特定の場面における人物、情景、心情などを解釈することができる。 問3…テキスト全体における人物相互の関係の変容や心情の変化を適切にとらえたり、言動の意味を解釈したりすることができる。 問4…テキストを踏まえ、条件として示された目的等に応じて、必要な情報を比較したり関連付けたりして、テキストに対する考えを説明することができる。 問5…テキスト全体の構成や展開、表現の仕方等を評価することができる。</p>	<p>第3問には、正解とされる選択肢に疑問が残るものが、複数見られた点が、大きな課題であったと考える。また、選択肢の数が少ない問いもあったが、その理由も判然としなかった。逆に問4では、個々の選択肢が3行と長いにもかかわらず、選択肢の数は6つあった。さらに、問5の場合、I群の特徴とII群の説明との間で対応があるのがわかるので、実際には2択ということになっていた。選択肢の数について、どのような判断に基づいて決められていたのか、大変気になるところである。</p> <p>「既存のデータでは蓄積されていないタイプの問題に関する解答傾向等のデータを集めること」ということを反映してだろうか、文学的文章で漢字の問題が出題されていた。形式はセンター試験とほぼ同じであるが、センター試験では5問であるのに対し3問しか出題されていない。時間配分への配慮か、あるいは問題タイプを多様化することが目的だったからか。</p>	<p>分析にも書いたように、29年度は選択肢の数と内容に必然性が感じられない。そもそもそのねらいが、これまでにないような問題を作ることを優先していたため、予想平均点はすべての大問で設定されなかった。「可能性」を探るための作問というのが、29年度の問題全体に対して言えるのではないか。</p> <p>その点、30年度の問題は全体のバランスや統一性が感じられる。文学的文章では特にその傾向が強く感じられ、30年度の問題のほうが、いわゆる問題らしい問題になっていると言える。しかし、題材が詩であり、題材が詩であったため、生徒には難しい問題となっただろうと思われる。</p>	<p>「詩も出る」という新しい方向性が示された。今後、エッセイ、俳句、短歌の他、散文詩、感想文、もしかしたら漫画なども出てくるかもしれない。どんな題材を、どんな形で出題するか、これについて予測は立てられない。したがって、様々な文章に読み慣れることが大切になってくるだろう。それも漫然と読むのではなく、たとえばテーマを決めて、生徒それぞれが関連する作品を探してきて、それを題材に話し合うことは有効であろう。文学的文章においては、ある程度感性が重要になってくるが、感性は一人では育ちにくいものだからである。</p>
30年度 試行調査	<ul style="list-style-type: none"> ・吉原幸子「紙」(『オンディーヌ』より) ・吉原幸子「永遠の百合」(『花を食べる』より) 	<p>【知識・技能】 問1…言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（語彙） 問2～問5…言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（文や文章） 問6…言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（表現の技法）</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 問1…テキストにおける語句の意味や比喻等の内容を適切にとらえることができる。 問2…テキストを踏まえ、条件として示された目的等に応じて、必要な情報を比較したり関連付けたりして、テキストに対する考えを説明することができる。 問3…テキストの特定の場面における人物、情景、心情などを解釈することができる。 問4・問6…テキスト全体の構成や展開、表現の仕方等を評価することができる。 問5…テキスト全体における人物相互の関係の変容や心情の変化を適切にとらえたり、言動の意味を解釈したりすることができる。</p>	<p>まず、詩の出題は初めてであり、様々なジャンルを題材としていくという姿勢が明確に示されたと言える。</p> <p>全体的に29年度の問題より従来のセンター試験により近い形になっている。表現や文脈に基づいて考えさせる点は、国語らしい問題と言えるのではないか。</p> <p>ただ、詩とエッセイを用いたにもかかわらず、両方を比較する必要のあるのは、問6の表現問題だけであり、他の問題はそれぞれの文章を読解すればよいという点で、新傾向へのチャレンジ色がやや弱まった感がある。</p> <p>今後の傾向として、より広いジャンルから出題される可能性があるものの、問いに関してはセンター試験とそれほど変わった傾向はないのではないだろうか。文学的文章ではどうしても表現にあらわれた心情の理解が中心にならざるを得ないだろう。</p>	<p>その点、30年度の問題は全体のバランスや統一性が感じられる。文学的文章では特にその傾向が強く感じられ、30年度の問題のほうが、いわゆる問題らしい問題になっていると言える。しかし、題材が詩であり、題材が詩であったため、生徒には難しい問題となっただろうと思われる。</p>	<p>「詩も出る」という新しい方向性が示された。今後、エッセイ、俳句、短歌の他、散文詩、感想文、もしかしたら漫画なども出てくるかもしれない。どんな題材を、どんな形で出題するか、これについて予測は立てられない。したがって、様々な文章に読み慣れることが大切になってくるだろう。それも漫然と読むのではなく、たとえばテーマを決めて、生徒それぞれが関連する作品を探してきて、それを題材に話し合うことは有効であろう。文学的文章においては、ある程度感性が重要になってくるが、感性は一人では育ちにくいものだからである。</p>

■ 第4問 古文

年度	出典	主に問いたい資質・能力	分析	比較	指導上の留意点
29年度試行調査	<p>・紫式部『源氏物語』 青表紙本（藤原定家）</p> <p>・紫式部『源氏物語』 河内本（源光行・親行）</p> <p>・源親行『原中最秘抄』</p>	<p>【知識・技能】 問1…言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（語彙） 問2…我が国の言語文化に関する知識・技能 問3・問4・問6…言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（文や文章） 問5…言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（表現の技法）</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 問1・問2…テキストにおける語句の意味や比喻等の内容を適切にとらえることができる。 問3…テキスト全体における人物相互の関係の変容や心情の変化を適切にとらえたり、言動の意味を解釈したりすることができる。 問4…目的等に応じて情報をとらえ、テキスト全体の要旨を把握することができる。 問5…テキスト全体の構成や展開、表現の仕方等を評価することができる。 問6…テキストを踏まえ、条件として示された目的等に応じて、必要な情報を比較したり関連付けたりして、テキストに対する考えを説明することができる。</p>	<p>センター試験の古文で必ず出題されていた古語あるいは表現の意味を問う問題が出題されていない。</p> <p>せっかく『源氏物語』の青表紙本と河内本を並べて、同じ箇所の記事の違いを取り上げている点はおもしろいのに、各問いになると、二つのテキストを比較する必要もほとんどない点が残念である。第3問と同じく、複数のテキストの用い方や設問の作り方に課題が残ったのではないだろうか。</p> <p>問2は、和歌の修辞、文法、内容に関する選択肢が一緒になっていて、これも「既存のデータでは蓄積されていないタイプの問題に関する解答傾向等のデータを集めること」が反映された実験的な問題かもしれない。</p> <p>いずれの問いも、解く際には従来の語彙力・文法力及び文脈を読み取る力があれば十分である。</p>	<p>問題としては、29年度の問題には統一感が少なく、やはり実験的な作問の感じが否めなかったが、30年度の場合はテキストが絞られた分、出題のねらいがわかりやすい。</p> <p>また、30年度の間5に見られた対話形式の問題は、今後出題される可能性が高いパターンではないかと感じる。</p> <p>いずれにしても、古文に関しては、やはり</p>	<p>知識をしっかりと身につけることが基本であろう。古文が現代文の形で出題されず、あくまで古文で出題される以上は、古典常識、古語の意味、文法、敬語、和歌等、古文読解に必要な知識は、どうしても身につけておかなければならない。したがって、教科書の学習を中心として、問題集等で様々なジャンルの古典に触れることが大切だろう。</p> <p>また、同じテーマの作品の読み比べも効果的であろう。29年度の問題のように、同じ作品でも異なるテキストの比較などは、探究学習の一つとして、生徒の興味関心を引き起こす可能性を持っている。</p>
30年度試行調査	<p>紫式部『源氏物語』 「手習」</p>	<p>【知識・技能】 問1・問3・問5…言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（文や文章） 問2…言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（語彙） 問4…我が国の言語文化に関する知識・技能</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 問1…テキストの特定の場面における人物、情景、心情などを解釈することができる。 問2…テキストにおける語句の意味や比喻等の内容を適切にとらえることができる。 問3・問4…テキスト全体における人物相互の関係の変容や心情の変化を適切にとらえたり、言動の意味を解釈したりすることができる。 問5…テキストを踏まえ、条件として示された目的等に応じて、必要な情報を比較したり関連付けたりして、テキストに対する考えを説明することができる。</p>	<p>問題文としては『源氏物語』だけだが、問5の対話文の中に、『遍昭集』が引用されている。本文中に用いられている語句の意味の解釈を課題として、引き歌及びその詞書を用いて対話的に課題を解決するという、新しいパターンを作りだしている。</p> <p>29年度の設定問数より一つ減って5問になっているのは、問5の関係ではないか。問5は、前半の教師と生徒の対話と、後半の生徒どうしの対話の二部構成になっており、後半の生徒の対話の正誤を問うという凝った作りになっているため、時間がかかることが想定されたのだろう、</p> <p>問1で従来の語彙力を問う問題が復活している。</p> <p>問5以外は29年度と同じくセンター試験とそれほど変わらない問題で、難易度も同じくらいと思われる。</p>	<p>基本的な古語や文法の知識がないと、読解は難しい。逆に言えば、マーク式の問題で、延ばしても100分という限定された時間内で、記述も含めて5分野（実用的文章＋論理的文章＋文学的文章＋古文＋漢文）を出題するとなると、従来のセンター</p> <p>述も含めて5分野（実用的文章＋論理的的文章＋文学的文章＋古文＋漢文）を出題するとなると、従来のセンター</p> <p>形式での出題にならざるを得ないのではないだろうか。</p>	<p>また、同じテーマの作品の読み比べも効果的であろう。29年度の問題のように、同じ作品でも異なるテキストの比較などは、探究学習の一つとして、生徒の興味関心を引き起こす可能性を持っている。</p>

■ 第5問 漢文

年度	出典	主に問いたい資質・能力	分析	比較	指導上の留意点
29年度 試行調査	<ul style="list-style-type: none"> ・司馬遷『史記』 ・佐藤一斉『太公垂釣図』 ・生徒のまとめ 	<p>【知識・技能】 問1・問2…言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（語彙） 問3・問5…我が国の言語文化に関する知識・技能 問4・問6・問7…言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（文や文章）</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 問1・問2…テキストにおける語句の意味や比喻等の内容を適切にとらえることができる。 問3…テキストにおける文や段落の内容を、接続の関係を踏まえて解釈することができる。 問4…テキスト全体における人物相互の関係の変容や心情の変化を適切にとらえたり、言動の意味を解釈したりすることができる。 問5…テキストに含まれている情報を統合したり構造化したりして、内容を総合的に解釈し、テキストに対する考えを説明することができる。 問6…テキスト全体を通じて対比されている事項について考察し、共通点や相違点を整理することができる。 問7…テキストを踏まえ、条件として示された目的等に応じて、必要な情報を比較したり関連付けたりして、テキストに対する考えを説明することができる。</p>	<p>漢文、漢詩、現代文と様々なテキストを用いており、極めて新しい出題のしかたである。しかし、問題を解く際にほとんどテキストの比較は必要がなく、複数の文章を読むことでの時間だけがかかってしまい、作問の際にねらいとしたことがあまり実現できていない。</p> <p>問6のコラムの中の間違い探しは、注意力を問う問題のようであり、考えすぎた上位の生徒ほど間違ってしまう可能性がある。正答率の低さの原因が非常に気になる問題である。</p> <p>問2の語句の意味は、一つは副詞で一つは再読文字であり、問5の漢詩の問題は三つが形式の問題で、残りの三つは日本漢文の歴史に関する問題である。このように、29年度の問題は、色々な観点から考えられる限りの新しい問題形式、発問形式を盛り込んだということが言えるのではないかと。しかし、問われていることは、従来のセンターで問われてきた力であり、求めている資質・能力に関してそれほど目新しいものはないように思われる。</p>	<p>漢文は大問の中で、最もセンター試験の出題傾向を残している分野ではないだろうか。</p> <p>29年の問題については何度も書いたように、実験的な性格が強くと、あれもこれも試してみたというように、作問のしかたに見えるが、30年度はその結果を踏まえて修正されている。つまり、29年度の問題と30年度の問題は、似て非なる問題であり、30年度の問題のほう</p>	<p>古文同様、漢文が漢文のまま出題される限り、漢文読解に必要な知識をきちんと習得させなければならぬだろう。字義、句法、再読文字、返読文字、訓点の決まり、漢詩の知識等々をしっかりと身につけさせ、これまでのセンター試験で出題されてきたレベル、長さの文章が読解できるようにしなければならない。ただ、その方法として、従来のように知識を覚え込ませてから内容・文章を読ませるといった指導のしかたは、工夫・改善しなければならないだろう。漢文へのアプローチを工夫し、生徒が漢文に触れる中で、自然に、また必然的に知識を増やしていくような学習方法が望ましい。</p> <p>また、漢文と現代文、漢文と古文との融合問題が出題される可能性もある。横断的・総合的な学習を構想していくことが今後ますます重要になるだろう。</p>
30年度 試行調査	<ul style="list-style-type: none"> ・金谷治訳注『莊子』 ・隆基『郁離子』 	<p>【知識・技能】 問1…言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（語彙） 問2・問3…我が国の言語文化に関する知識・技能 問4・問5…言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（文や文章）</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 問1…テキストにおける語句の意味や比喻等の内容を適切にとらえることができる。 問2…テキストにおける文や段落の内容を、接続の関係を踏まえて解釈することができる。 問3…テキストの特定の場面における人物、情景、心情などを解釈することができる。 問4…テキスト全体における人物相互の関係の変容や心情の変化を適切にとらえたり、言動の意味を解釈したりすることができる。 問5…テキストに含まれている情報を統合したり構造化したりして、内容を総合的に解釈し、テキストに対する考えを説明することができる。</p>	<p>古文と同じく、問5が生徒の対話になっている。この問いでは、対話の空欄を補うために、複数のテキストを比較する必要がある。その意味で、「テキストの比較を通して登場人物の心情や言動の意味をとらえ、漢文を的確に理解する力を問う」という出題のねらいがある程度実現できていると思われる。</p> <p>しかし、問1～問4に関しては、ほとんどセンター試験の問題と同じである。29年度の問題のように、一つの問いの中に色々な要素を放り込んでいるわけではなく、字義の問題の出し方、訓点、書き下し、現代語訳等を問う問題についても、きちんと整理されていて、センター形式に慣れている生徒には、解き方がわかっているだけにやりやすいはずである。正答率も29年度よりも全体的に少し上がっている。</p>	<p>が、今後の方向性をより示していると考えられるのではないかと。もちろん、あくまで可能性であるから、今後の経緯を見守っていかなければならないが、少なくとも、モデル問題や29年度の問題の方向に戻ることはないように思われる。</p>	<p>また、漢文と現代文、漢文と古文との融合問題が出題される可能性もある。横断的・総合的な学習を構想していくことが今後ますます重要になるだろう。</p>